

# 若鷺

ホームページ



上野原中学校学校だより  
第 8 号

令和7年12月2日発行

文責 校長 長谷川英信

## 災害時に上中が避難所として開設された時を 想定し、避難訓練を実施をしました！

11月17日(月)の6校時には、毎年三回実施している今年度最後の避難訓練を行いました。今年度は、これまでとは内容を変え、もしも災害が起きたときに、上野原中が避難場所となったことを想定した避難訓練にしました。そのような災害が起きたときに、学校はどのような状況になるのか、また今からでも備えとして知っておかなければならないことなど、生徒達だけではなく、本校職員も理解しておかなければならないため、この内容で避難訓練を行いました。もし上野原中が避難所となれば、運営は誰がどのようにやっていくのか、中学生はどのように行動すべきなのか等について、市の危機管理室の職員の方に協力していただき、本校からは教頭と教務主任が中心となってこの訓練を企画していきましました。さらに、学校運営協議会の方々にも応援をしていただき、地域に住む外部の多くの方々の参加で行うことができました。内容としては、避難場所となったときの運営と役割についての講義を市の危機管理室の担当の方からしていただき、次には学校に設置してある防災倉庫の中に入っているものについて、やはり市の危機管理室の担当の方から、目的や使い方についての説明を受けました。最後に、簡易ベット(段ボール)の組み立てと撤収の体験です。講師は、市の消防署のOBの方です。この3つを学年毎に15分間で説明場所を回り、それぞれの場所で学習していくといった形で行いました。どの学習の場所でも、担当の職員の方々が当日までに中学生に向けて、細かく準備をしていただき、内容のとても濃いものでした。生徒達だけではなく、我々職員が聞いていても大変参考になり、勉強になりました。災害が起きたときには、約300人程度が上中の体育館に避難することになっている予定だそうです。防災倉庫の中身だけではとても足りないことや、運営についても学校職員ではなく、地域のボランティアの方々が中心になるなど、考えただけでも多くの困難な場面が想定できます。生徒達にもできることがあります。そのことも知っておき、避難してこられた方が、それぞれの役割をもって共同で生活し、避難所の運営に協力していくことが大切であることを思い知らされました。これまで知らなかったことや、知らなくて意識できていなかったこと、またなんとかなると思ってしまっていた甘い考えでなどでは、到底この災害時には対応できないことを学びました。災害は起こらないことが理想ですが、もし起こればこれまでの生活は一転します。近年、日本で起こった様々な災害にしても、非難された方々は、きっと大変な経験をしてこられたことであろうと考えさせられました。中には、今でも避難生活を送っている方々がいます。そこには、子供だから、大人だから関係ありません。みんなで力を合わせるしかないのです。そのための考えるきっかけを今回の訓練では教わり、学ぶことができた気がします。生徒達もとても真剣に聞いていました。今回の避難訓練では、多くの外部の専門の方々の協力により、多くを知り、深く考えさせられるものになりました。本当にいい機会になりました。



## 来年度の生徒会役員選挙に全校で取り組みました！

10月から、各学級1名の選挙管理委員を選出し組織した選挙管理委員会により来年度の生徒会役員選挙の取組が始まりました。当初、11月14日が立ち会い演説会と投開票でしたが、2年生のインフルエンザによる学年閉鎖で一週間延期しました。1, 2年生は、立候補者を学級で支援して学級、学年の取組として担任を中心に、選挙の仕組みや投票の心構えなども含め学習の場として取り組んできました。毎朝、玄関付近に立ってお願いする取組や、ポスターを書いたり、お昼に学級を訪問したりととても熱心に頑張っていました。立ち会い演説会はインフルエンザの予防でリモートとなりましたが、全ての立候補者、応援演説者とても素晴らしい態度と内容で全校に呼びかけていました。上中をこれからどのような学校にしていきたい火については、今の課題を的確に捉え、真剣に新たな取り組みを提案していました。全ての発表者の演説を聴きました、とても勇気もらった気がします。来年度の学校が楽しみになりました。今回はとても多くの立候補者が出たこともあり、全校で盛り上がった選挙の取組となりました。生徒達の手による、生徒達のための上野原中学校を目指し、全校一丸となって来年度につなげていってみたいと思っています。



## 中学校で学ぶ意味について考えてほしい！！

先月、私が夕方下校指導で玄関付近で挨拶をしていると、ある生徒が寄ってきて「校長先生、学校には来なくちゃいけないのでしょうか？」と、聞いてきました。私は、一瞬どう答えるべきか悩みましたが、その生徒は真剣に考えている様子であったため、真剣に答えようと思いました。勉強がなぜ必要かということと、友達と過ごすことの大切さと2つを伝えようと思いました。この質問は、私が担任をしている頃から毎年、生徒達は聞いてきます。その意味は、生徒によっては一つではないかもしれませんが、大切であることが分かっているから毎日学校に来て学ぶのだと思います。また、中学生という時期が、思春期の多感な時であり、大人の声を素直に聞き入れられない時期であるから、そのように聞いてくるのだと思います。生徒に聞くと、「入試があるから」「部活があるから」「友達がいるから」「将来のため」、そのように言うかもしれません。だからこそ、この時期に親子でこの話題で話をしてもらいたいです。「親の考えと願い」をちゃんと言葉で伝えてほしいです。学校でも、「なぜ学ぶのか」「なぜ集団行動を重んじるのか」このことについて、先生方より話をしてもらおうと思います。中学生には、未来に向けた「夢」を必ず持ってほしい。これから先に楽しく、面白い世界が広がっていると教えてあげたいのです。そのためには、我々大人が、生徒達に向かって「夢と理想」を語り続けていくことこそ、未来ある子どもたちに向けた教育ではないでしょうか。是非ともご家庭で時間をとって話をしてみてください。よろしくお願いいたします。



※表題の中のQRコードを読み取り、是非とも、上野原中のホームページもご覧ください。